

## 今日のキーワード クルマの「自動運転」は今後どうなる？（日本）

旅客機にはオートパイロット機能が搭載されており、通常的环境下では、殆どパイロットが操縦かんを握ることなく航空機が運航できます。エレクトロニクス技術の進歩と部品のコストダウンにより、自動車の世界でも、ADAS（先進運転者支援システム）が、急速に普及してきました。将来はさらに進歩して、「自動運転」が可能となる見通しです。自動車の新たな付加価値となるため、世界中の自動車メーカーが研究にしのぎを削っています。

### ポイント1

#### 自動ブレーキや車線維持装置などが普及中

##### ドライバーの負担軽減や事故防止のみならず燃費向上や渋滞解消効果も

■すでに現在の市販車には衝突防止用の自動ブレーキ、車線維持装置、速度維持装置、駐車支援システムなどの装着が進んできています。これらの装置やシステムはADAS（先進運転者支援システム）と呼ばれます。ADASは事故防止は勿論、ドライバーの疲労軽減に大きな効果があるだけでなく、燃費が向上したり、高速道路の渋滞解消などの副次的効果も期待できます。社会的にも極めて貢献が高い技術革新と言えます。

### ポイント2

#### 今後は「半自動運転」が可能に

##### 2020年頃には導入か

- 今後は、前述の装置やシステムに加え、車間距離制御、合分流支援、右左折支援などの機能も付加される見込みです。これらの装置やシステムは、便利ですが、いずれも最終的な責任は運転者にあるのが特徴です。
- 今後は、これらの機能を複合的に組み合わせたシステムで、特定の環境下で、「半自動運転」が可能となると思われます。例えば高速道路で、運転者がハンドルを握らなくとも、走行ができるようになる可能性があります。また、駐車場エリアでは、運転者が車を離れてスマートフォンなどで、車を自動的に駐車させるシステムの研究も進んでいます。



### 今後の展開

#### 完全な「自動運転」の実現は2025年以降か

「半自動運転」への移行には、法制度の変更が必要になると見られています。また、「半自動運転」以降の装置に関しては、最終的な責任が運転者ではなく、自動車やシステム側に代わっていく可能性もあります。

その後は、「自動運転」への移行が最終段階となります。行き先を入力すれば、運転手がいなくても自動的に目的地に到着できる究極のシステムです。

米国のグーグル社などが実用化に向けた実験を行っていますが、「自動運転」にはセンサーやカメラ類が大量に必要となるうえ、3次元地図データやインターネット接続、高性能な車載コンピューターなども不可欠となるため、その普及のハードルは高くなります。セキュリティの問題も極めて重要です。このため「自動運転」の導入は、早くとも2025年以降となりそうです。

### ここもチェック!

2016年 6月 27日 「季節予報」は暑い夏を予想（日本）

2016年 6月 20日 「外国人旅行者」増加と宿泊施設の拡大（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。